

第3回 信州みちビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成29年11月20日(月) 13:00～15:00

開催場所：長野県庁 講堂

【議事次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事
 - (1) 信州みちビジョンの構成(案)について
 - (2) 信州みちビジョン(素案)について
- 4 その他
- 5 閉会



委員会の様子

【配布資料】

- ・資料1：信州みちビジョンの構成(案)
- ・資料2：信州みちビジョン(素案)
- ・資料3：前回の主なご意見と対応等について
- ・参考資料1：次期総合5か年計画の策定について(答申)の概要
- ・参考資料2：第2回信州みちビジョン検討委員会 議事録

【議事録】

(高瀬委員長)

今日は信州みちビジョンの構成(案)を基本としてご議論いただき、まとめたいということです。さらに重点分野と施策の細かい内容につきましては、この信州みちビジョン素案の中に入っております。前回より大きく変わった点は、将来像も新しく入ってきたことと、あと基本目標など今まで無かった部分が入ってきたということです。

(河野委員)

基本目標のところが一番優先だと思うので、まずその部分だけコメントをさせていただきたいと思います。

この基本目標を定めるのは、計画の中で一番難しいところだとは思っていますが、この交流人口の、住んでいらっしゃる方がそのまま住み続けて定住人口をきちんと維持する上に交流人口を増やしたい、というところに繋げる基本目標ということで「行ってみたい・住み続けたい信州のみちづくり」というふうに置いている、ということですが、ここで設定する基本目標は、言葉の使い方や置き方として、二つのパターンが考えられると思っています。一つは今回のように、住む人が住み続けて、来る人が来てくれるというゴールをそのまま表す言葉を持つてくるというのが一つと、もう一つは、そうなるために道がどういう道であつたら人が来てくれたり、住み続けたいと思ってくれるかというところの、そのゴールの一手手前の部分を示す言葉にするか、という二つの考え方があると思います。

そこで、今回はそのゴールに直結させたビジョンをお示しいただいたのですが、多分この「行ってみたい」の部分は交流人口拡大ということだと思いますが、観光分野から考えると、

道を調べて行ってみたいとは思わないはずなので、観光地や知り合いがいるだとか、りんご狩りしたいとか、ぶどう狩りしたいみたいなどから、長野県に行ってみようかという順序で来るので、来る時には多分、訪れる方はその前には道のことは知らない状態で来られて、来た後で「きれいな道だね」とか「この景色良いね」「写真撮れるところあるね」とか「この先行ったらもっと綺麗そうな気がするから予定していなかったけどその先に行ってみようか」みたいな感じで道と触れ合ってくるのが、来訪者の動きだと思います。ですから、行ってみたいというところの座りがどうしてもいまいちピンとこない、というのが個人的な感覚です。

そういう意味からすると、その一歩先、その向こうへ行ってみたい道というか、その角を曲がってみたい道というような雰囲気であれば、来訪した人の感覚としては分かるところかなと思います。代替りの言葉を今ここですぐに出せなくて申し訳ないですけども、一旦は以上です。

(事務局)

言葉のかかり方なのですが、「行ってみたい信州」それに対するみちづくりというふうにしています。「行ってみたい」「信州のみち」という訳ではなくて、「行ってみたい信州」になるような来た人が快適に動けるみちということで、かかる所は「信州」までかかっているという形で捉えていただければと思います。

(高瀬委員長)

今お話されている部分は、私もよくまとまっていないのですが、道があるから行きたい訳ではないので、今のご説明だと少し違うような気がします。

(倉島委員)

前回このみちビジョンの構成の中では無かった、追加された部分でありますけれど、重点分野の施策ということで、Iの(2)の「低炭素社会を目指した道路整備」の中に「①バスや鉄道等の利用を促す道路環境整備」ということで明確にバス・鉄道という公共交通機関を維持、更に発展といいますか、利用促進・利用増進ということで触れていただいた、明確に示していただいたということで、ありがたいと思っております。実際の話、公共交通の維持という中に、道路が占めることは非常に大きい部分がありまして、道路渋滞や狭隘などの阻害要因が明確にあるわけで、そういう点でははっきり示していただいて、これを重点的な施策として触れていただいたのは非常にいいことと思っております。

(武者委員)

資料1について、まず先ほどの河野委員の意見の続きなのですが、もし仮にこの「行ってみたい・住み続けたい」が「信州」という言葉にかかるのであれば、このみちビジョンとしては何も言っていないことになってしまうと思います。

「行ってみたい・住み続けたい」であれば基本方針のまま「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」の方が内容を表していると思います。

それと、もうひとつは、重点分野のIですが、前回、私のほうでご意見申し上げたことに対応したことで「や」を入れていただいたと思うのですが、見出しというのは厳密な意味というよりは、言葉のイメージというか、読み手にとってはキャッチフレーズで印象が伝わるものだと思うので、やはり「や」を入れたところでどうしても福祉に特化したみちづくりという意味合いは免れないと思うのです。

これであれば、下の段の丸ポツ（・）で説明文があるところから拾い「持続可能な地域の暮らしを支えるみちづくり」の方が内容と表現が合っているような気はします。

「や」を入れ、我々にご説明いただいて納得するのですけれど、このビジョンは我々のために作っているものではないと思うので、やはり読むのは県民だと思うので、そうすると、「や」を入れただけでは少しまじいかなという感じがしました。

（事務局）

健康長寿という四文字の言葉ではなく、健康ですとか長寿ということでより広い世代を意識してつけた訳でございますが、今ご意見いただきましたように確かにまだ福祉的な面の言葉に聞こえるのであれば、今「持続可能な」というご提案もありましたが、このような言葉の方がいいというのがありましたらご意見いただければありがたいです。

（中村委員）

健康も長寿も食に関係があるかなというふうに思います。

それと全然違うことなのですけれど、中部横断自動車道というのは、この基本目標の中の全部が入っている道です。「つなぐ」ということも長野県の真ん中を横断している道路で、太平洋から日本海へ繋ぐということもあるし、「まもる」という意味でも食の運搬や命の運搬を守ることでもいいし、「いかす」ということでもこの道はとてもインターがすごく多いのです。

そして、出入りが無料のところですので、例えばずっと山梨の方から来ていただいても、水がおいしいところでお水飲んでまた入って、お米のおいしいところでお米買ってまた入って、お花とか作物があるし、それからその先には歴史がある。その先を長野県の縦に通っている横断している道を通してその先にどうやって広げていけばいいかなというふうに思っているのです。

ということで、さっきの意見では「健康や長寿」というのはポツ（・）でもいいのではないかなというふうに思います。

（高瀬委員長）

重点分野のⅠの「健康や～」の議論となっているところなのですが、先ほど武者委員が言われたように、このタイトルの部分と下の部分のバランスが少し悪いというか、タイトルを読んでから下を読むと何か少し合致しない部分が多いのかなと思います。

先ほど武者委員が言われたとおり、説明をたくさんしてもらえれば分かるのですけれど、それでは意味がなくて、読んで分からないとしようがないと思います。

（三井委員）

私もⅠの表題のところは、しっくりこないというのはあったのですが、かといってこれだというのもなかったのですけれども、次期総合5か年計画の方で使っている言葉を参考にして、この(1)(2)(3)の内容からすると、一番簡単なのは「県民の暮らしを支えるみち」とか、もしくは「快適な暮らしを支えるみちづくり」とかそういったことで表現できるところのように考えます。

（高瀬委員長）

この(1)の表題を変えれば、この下のポツ（・）のところも変わってくるのでしょう。

（武者委員）

下の黒ポツ（・）が、表題の説明文ということであれば、「持続可能」という意味の中に当然福祉というのも意味として包含されているのではないのでしょうか。

そうであれば「持続可能な暮らし」とか「持続可能な地域の暮らしを支える」という意味で私は特に問題は無いような気がするのですが、どうでしょうか。

（事務局）

参考資料 1 の 5 か年計画の中の真ん中の 2 番目なのですが、「人をひきつける快適な県づくり」とございまして、持続可能で快適なという、快適というところを加えまして、ここに「持続可能で快適な暮らしを支えるみちづくり」というようなのをご提案したいと思いますがいかがでしょうか。

（高瀬委員長）

そうですね。何に関連しているかというのがあるので。

（中村委員）

持続可能などというのは、どういう意味で書かれているのでしょうか。

（事務局）

持続可能などという意味は、もちろん環境的な意味もございまして、人間が健康で長寿を全うしていくというのが、社会で人口減少するのですが、高齢化になっても社会のシステムを運営できる環境面と社会面両方を加えまして、持続可能というところを入れられたらなというように今ご提案した次第であります。

（高瀬委員長）

持続可能な地域、地域でこれから過疎が進んで行っても、この「コンパクト+ネットワークに資する道路の構築」や「誰もが安心して移動できる道路環境整備」をしておけば、地域が持続可能であるということですし、もう一つは先ほど低炭素社会を目指すということで、環境に優しく持続可能などという、そういったイメージですね。

道路だけを考えたら確かに持続しているのですけれども、この場合の持続可能なポツ（・）の中にもある、下ポツ（・）の「子供からお年寄りまで、誰もが健やかに暮らせる、持続可能な地域」、という持続可能な地域という意味合いが結構強いかなと思います。

そうするとその黒ポツ（・）を皆が健やかに暮らせるとか快適にとか、少し入れて、変えて、という話になりませんか。

まとめますと「持続可能で快適な暮らしを支えるみちづくり」でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それではそのように変更してください。

あと、この基本目標に関して何かありませんか。オブザーバーの皆様、何か感想でもあれば、少しご意見をいただこうかと思っておりますので、吉見所長からよろしく願いいたします。

（長野国道事務所 吉見所長 [オブザーバー]）

基本目標というのは、参考資料 1 の長野県総合計画審議会との兼ね合いがあるのでしょうか。このキャッチフレーズ。そういう関係性のような、狙いのようなものがあるのでしょうか。

(事務局)

長野県の5か年計画は、総合計画ですので、目標として年数は若干違いますが、その中の道路分野の計画ということになるので、大きな意味で言えば当然同じところを向いているということになります。

(長野国道事務所 吉見所長 [オブザーバー])

先ほどの「行ってみたい・住み続けたい」は「信州」にかかるというのは、その「信州」というのはこの長野県総合計画審議会に表現されている「信州」という意味合いという形でしょうか。

(事務局)

参考資料1に、次期5か年計画が書いてありまして、右の上の方に基本目標がございます。次期5か年計画、県全体の目標としては「確かな暮らしが営まれる美しい信州」ということが目標となっています。今回のみちビジョンとしましても、共有したいと考えています。

(長野国道事務所 吉見所長 [オブザーバー])

説明があれば、なんとなく私は納得するのですが、いかがでしょう。

(高瀬委員長)

全体の総合5か年計画の基本目標は「確かな暮らしが営まれる美しい信州」ですね。

これに対応したいのかどうか分かりませんが、事務局としては、これに対応する形で出したいのでしょうか。

(事務局)

資料2の2ページをご覧くださいまして、ここに、本ビジョンの位置づけということで円が描いてございます。全体的な茶色の円が県の全般の総合5か年計画ということで県全体の計画になります。その中に、今回の信州みちビジョンですとか、交通政策に関係します新交通ビジョンというものが含まれてきますので、向かっている方向は一緒でないはずなので、ここと合わせていきたいと考えています。

(長野県道路公社 新家理事長 [オブザーバー])

基本目標ということならば、やはり県の5か年計画とは方向的には同じものであるべきとは思いますが、ただ、「行ってみたい・住み続けたい信州のみちづくり」というのは、道路がどうなのかなということも皆さんが仰っておりますので、ピンとこないものがあるのかなと感じています。

(中村委員)

読んだ時に「行ってみたい」は「行ってみたいみち」に繋がり、「信州のみちづくり」も繋がるのですが、「住み続けたい」が「みち」に繋がっていかない言葉なので、ここにもっと素敵な言葉が入らないであろうかと思うのですけれど、いかがでしょうか。

「行ってみたい」は「みち」です。「住み続けたい」「みち」となると、もっと素敵な言葉があるように思いますけれど。

(高瀬委員長)

方向性だけははっきりした方がいいと思うのですが、先ほど武者委員が言われた基本方針が3つあるから、それを盛り込む基本目標にするという方向性もありますし、最初に河野委員が言われたような、「みち」というのは、そもそもそれを目的に行くわけではないので、それを上手く使えるような、ゴールを表すような言葉ではない、そうなるために、どうするかという方向の言葉のイメージを持った方がいいのではないかと思います。

(河野委員)

今の話に追加で、総合計画の確かな暮らしのところのフレーズとの整合性というところを考えて基本目標を位置づけるという計画の作り方の場合は、総合計画のゴールをそのまま借りてくる形ではなくて、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を実現するのに、「みち」として何ができるか、ということが目標というものに定められるはずなので、「みち」の基本目標を通じてこの5か年の総合計画の基本目標に紐付いていくというような理屈さえ通れば、言葉尻が共通である必要は全然無いのかなと思います。

(高瀬委員長)

言葉尻をわざわざ合わせる必要はないというのは確かに仰る通りです。無理に合わせる必要は無いと思いますし。今の話ですと、やはり基本方針としてしっかり「つなぐ」「まもる」「いかす」があるので、ここあたりをもう少し意識して作られてもいいのではないかなと。

「確かな暮らしが営まれる」ということは、「行ってみたい」の部分があまりないですね。

(事務局)

「行ってみたい」というのは人を呼び込むと、また観光としてもそういう魅力を持っている、また、そういう地域であるものを支える「みち」というところを言っているのですが、住み続けたい」というところは地域に産業やそうした環境などの魅力がないと、そこに住みついていただくことができないので、そうした産業とか、支えるための社会基盤としての「みち」、そういったものを造っていききたい、というところがございます。

また、長野県の総合5か年計画のサブタイトルというか、二段目にございます基本目標「～学びと自治の力で拓く新時代～」という言葉がございますけれども、この自治と言ったところ、それは地域で、年齢層も色々な方がいて、その地域から自分の職場なり、駅や公共交通にアクセスできるものが用意されていないと、地域が、地区が、集落が、永続的に運営できないだろうということで、そういったものも支えるというのがやはり「みち」であると考えます。そうした長野県全体としての住み続けたいということと、地域として、集落としての住み続けたいというものを支えていくのが「みち」であろうかと思います。

それでこの「行ってみたい・住み続けたい」というところが分かりにくいというところがございますので、この言葉はそのまま活かす形にさせていただいて、長野県の中の基本目標としてあるように、二段目にございますように、可能ならば二段目に少し何か説明を加えるような、次の段階を示すようなことを加えるような形でも可能かなと思うのですが、委員さんのお考えをお聞きしたいと思います。

(武者委員)

今、その「行ってみたい・住み続けたい」が「信州」にかかっているのです、どうしてもそういう信州に資するためのみちづくりという意味になりますよね。そうするとみちのビジョンとして

は何も言っていないことになると思うのです。先ほど委員さんからご指摘あったのは行ってみたいみちとか、住み続けたいみちというのは、少し意味としては無いのではないかとということですね。やはりみちビジョンなので、みちを修飾する何か言葉が欲しいのですけれども、そうでなければみちビジョンとしてやはり意味がない、みちビジョンの基本目標としては意味がないと思うのです。

そうしたとき私はやはり、どんな道かということを表すのは「いかす・まもる・つなぐ」ということしか無いのではないかと感じてしまうので、非常に単純ですけれども。

(事務局)

基本目標のところは基本方針というのと少し違う言葉で表そうかなというところがありまして、今この表現になっているのですけれども、武者委員の仰っているのは、もう基本方針の3つを表に出してみたらどうかというご提案でしょうか。

(武者委員)

もっと良い意見があればそれが良いと思うのですけれども、少なくとも、この3つの言葉は直接的に長野県としてどういうみちを造りたいかというのを端的に表している言葉だと思うので、何か目標と方針を分けなければいけない理由があればいいのですけれども、同じでもよければこれでいいかなと思っています。個人的には。

(三井委員)

私も武者委員が仰った考え方で県の総合計画の方とか、あるいは交通ビジョンの方でも、象徴的なところはやはり少子高齢化・長寿社会を迎える中で確かな地域の暮らしを支える交通、あるいはみちづくりということだと思いますので、この基本方針を繋ぐ様な言葉で目標を立てていただいた方が良いのかなと思います。

あと一つ、全体の方のことです。みちビジョン全体の素案の方には、項目として大分入れていただいているというように認識しているのですが、例えば渋滞の解消とか救急車両等のスムーズな走行ですとか、そういったことに繋がる部分で、重点分野とその施策というところに、もっと、ビッグデータとかICT、そういった新しい技術等の活用という部分をはっきりと前面に出していただけないかなということをお願いしたいなと思っています。

例えば、信号でも、混んでいる状況、緊急の状況に対応できるような信号の設定とといいますか、一番は人工知能がうまく使えるようになれば、信号を都度その状況に応じて一番最適な状況に調整するようなみちを造っていくとか、そういったことも10年先にはほぼ当然というような時代になるのではないかと感じるものですから、そういった新しい技術とかを、かなり優先的に活用していくことを是非含めていただきたいと思います。お願いしますと思います。

(事務局)

先ほどの基本目標のところなのですが、武者委員からご提案のございましたこちらの基本方針の3つのものを、「行ってみたい・住み続けたい～」の次にサブタイトルの3つを入れるような形にして、それで信州のみちづくりを進めて行くのだというようなことを示すような見せ方になりますけれども、そのような形を少しご提案差し上げたいのですがいかがでしょうか。

キャッチフレーズ的なものと端的な言葉と、2つ入れたいという事務局の考えです。

(倉島委員)

私は、基本方針ではっきり「つなぐ・まもる・いかす」ということと、それからそれに関わる重点分野と施策がきっちりあれば、基本目標というのはイメージ的に「行ってみたい信州・住み続けたい信州」そういう信州のためのみちを如何に造るかというビジョンで良いと思います。

(高瀬委員長)

確かにそうなのですけれど、それだったら、「つなぐ・まもる・いかす」の方がいいのではないかと皆さんの話だと思っております。

(武者委員)

県として、基本目標は何か言っているようで何も言っていないものでもいいのだということであれば、これはこれで良いと思うのです。ただやはり、二人の委員さんが言われた「住み続けたいみち」というのは無いのではないかとか、「行ってみたいみち」というのは無いのではないかと、いう感覚はすごく大事だと思うのです。なので、そこはやはり変えた方がいいのではないかと、思うのです。

(事務局)

確かに武者委員や皆さんの仰る側面もございまして、事務局とすると、先ほどサブタイトルと言った「つなぐ・まもる・いかす」を基本目標にした信州のみちづくりというような方向で考えたいと思うのですが、いかがでございましょうか。

(中村委員)

目標というのは、そんなに難しく言わなくても皆が暗記できるくらいに簡単なものの方が良いような気がしますので、私も武者委員の仰る様に「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」でもいいと思いますし、事務局の仰る通りそこに「行ってみたい」が入るなら、「行ってみたいね つなぐ・まもる・いかす 信州のみち」というような、そういう分かりやすい目標を立ててくださった方が、一般の人たちに分かりやすいと思いますけど、いかがでしょうか。

(事務局)

基本方針のこの3つの項目を目標として、それぞれが何を表しているかというところを基本方針として示すというような形でやりたいと思います。

(高瀬委員長)

ということは「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」でよろしいですか。

(事務局)

少し言葉を補足させていただきますと、そもそも基本目標、こういったビジョンを立てる時には先ほど河野委員の方からご質問あったようにゴールを目指すのか、ゴール一步手前をいうのか。

今回みちビジョンということでございまして、本来基本目標をどういった社会にしていきたいか、長野県にしていきたいかというのを既に次期総合5か年計画の中で「確かな暮らしが営まれる美しい信州」として、これが我々県の目指す社会の姿というふうになっておりますので、それを元々基本目標とするか、それを支える道路整備としたらどういったものなのかということに基づ

本目標とするかという2つの選択肢になってくるかと思うのです。そうすると今もう1つ道路として出すのであれば、そうした社会を作っていくための基本目標として、「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」というキャッチフレーズにしていったらどうかということでございます。

(高瀬委員長)

結果的に「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」でいかがでしょうか。

この「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」は基礎案であっていい話なので、それよりも代案として何かいいものがあれば、後日メール等でどちらがいいよということを発言していただければ、というやり方もあります。

多分ベースとしてはこの「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」になるという気がします。

(河野委員)

小さいことだけひとつ。18ページ、災害対応の道の駅活用のところです。

道の駅も新しいものとか良いものとそうでないものによって道路の融雪状況とか色々が違おうと思うのですが、この写真1の道の駅の防災機能強化とか文章のところで、防災倉庫・トイレ・防災井戸はありますが、雪でこれが使えなくなることは容易に考えられるので、そこに融雪の話は入れておいた方が、災害が冬に来たときに使えないと意味がないので、それを進めておくということはひとつ災害対応では不可欠なので、入れておいた方が良いと思います。

(武者委員)

この素案の方への意見で、大きなところ1つ、小さなところ1つです。

大きな方とすれば、こういう個別の計画で注意しなければいけないのは、前回申し上げたとおり、いかに縦割りの発想を排除していくかというのが大事だと思います。今回、いろんな他部局との連携のところを追記していただいたということなのですから、もう少し踏み込んで書くべきではないかと。

今のままでは、例えば13ページのコンパクト+ネットワークのところですが、やはりこれだけ見ると道路を良くすれば街というのは、コンパクト+ネットワークが実現されるのだというような意味にとれてしまうのですが、やはり県としては、例えば都市・まちづくり課はその街中のストックの再生を今も頑張っていますし、例えば地域振興課かどこか分かりませんが小さな拠点とか、中山間の集落再生という取り組みもやっているでしょうし、産業振興の方ではやはりそういう取り組みをやっている訳で、それと道路のみちづくりというのがどう繋がっていくのか、みちを造っただけでも産業は来ませんから、そういうところで相互に補完しあって、よりよい県を作っていくんだというニュアンスがもう少し出るような書きぶりに、ここの13ページだけではないんですけど、された方がいいと思います。

それから、小さなところで、気になったのは時間距離の図があるのですが、5ページです。これは少し、違和感があるのが、普通は時間距離の図というのは現在が基準だと思います。現在、過去からどう縮んだのか、これからどう更にこれが縮んでいくのかというものが一般的だと思うのですが、

この将来、しかも将来というのは予想ですから、それが基準になっているというのは時間距離の図としてはあまりないのかなとか、少し分かりにくい気がしたので、もし可能であれば、修正していただければと思います。何かたぶん事情があってこういうものになったと思うのです

けれども。

(事務局)

今いただきました2点でございますが、他部局の連携の関係を記載したつもりではございますが、もう少し、中身を確認させていただいて修正させていただきたいと思います。

それから、時間距離の図のところでございますが、設定上、将来の長野県の形が正しい形で、そこに向かって整備が進んでくるというイメージで作ったので、将来がこういう形になっていますけれども、作業的に出来るかどうかの確認をさせていただいて、修正可能であればさせていただいた形で対応したいと思います。

(高瀬委員長)

修正していただいた方が良くと思います。将来絶対をこれやるということになりますから。

(事務局)

お時間いただければと思います。

(高瀬委員長)

色々と重点分野がそれぞれ出てきていますけれど、項目の言葉尻などを揃えた方がいいと思います。できれば全体的に揃えてしまった方がいいのではないかと思います。

あと、校正について、「、」や「。」が無いところとかありますけれど少し確認をしてください。パブコメをかける時は、このままの大きさですか。図が小さいものがあります。

(事務局)

基本的には、このA4サイズでパブコメを予定していますが、中に書いてあります図が見辛い点があるというのは承知しておりますので、対応したいと思います。

(高瀬委員長)

まだ、修正点等ご指摘がありましたら、近日中に事務局の方にお伝えいただければと思います。以上で、今日決めたことは、重点分野の施策のⅠの「健康や長寿」のところを「持続可能で快適な」と変えるということと、基本目標が「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」、主なところはそのようなところでありますが、何かございますでしょうか。

それでは、本日の議事は以上ですので、事務局にお返しします。

(事務局)

本日いただきましたご意見の修正できる点につきましては、対応させていただきます。

(以上)